


様式第1号 (第7条関係)

会 議 録

会議の名称	平成30年度第2回御宿町地域公共交通会議		
開催日時	平成31年1月28日(月) 10時30分開会 14時10分閉会		
開催場所	御宿町役場 中会議室		
会長氏名	石嶋 繁		
出席者氏名 (9名)	<ul style="list-style-type: none"> ・御宿町長 ・小湊鉄道株式会社業務課企画係長 (代理) ・住民又は利用者の代表 ・住民又は利用者の代表 ・小湊鉄道労働組合書記長 ・夷隅土木事務所長 (代理) ・いすみ警察署交通課長 (代理) ・千葉県総合企画部交通計画課 企画調整班長 (代理) ・一般社団法人千葉県タクシー協会理事 (代理) 	<ul style="list-style-type: none"> 石田 義廣 委員 田中 雄一 委員 平野 孝之 様 石嶋 繁 委員 堀川 賢治 委員 古市 茂雄 委員 大野 敏夫 委員 高梨 和佳 様 及川 竜昭 委員 鈴木みどり 様 川俣 好彦 委員 坂本真理佳 様 松本 眞 委員 松本 豊子 様 	
欠席者氏名 (3名)	<ul style="list-style-type: none"> ・国土交通省関東運輸局 千葉運輸支局首席運輸企画専門官 ・一般社団法人千葉県バス協会専務理事 ・JR東日本旅客鉄道株式会社勝浦駅長 	<ul style="list-style-type: none"> 飯塚 孝廣 委員 成田 斉 委員 成田 誉紀 委員 	
事務局氏名	御宿町企画財政課	課長 主幹 係長	田邊 義博 市原 茂 渡辺 純一

<p>会議事項</p>	<p>1. 開会 2. 会長あいさつ 3. 議題 (1) 乗合運行（エビアミー号）の利用状況について 4. その他 5. 閉会</p>	<p>会議結果 全議案原案のとおり可決</p>
<p>会議の経過</p>	<p>別紙</p>	
<p>会議資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 御宿町地域公共交通会議次第 ・ 委員名簿 ・ 資料1 御宿町乗合運行の利用状況 ・ 資料2 地域内フィーダー系統確保維持事業評価資料 ・ 資料3 運行ダイヤ変更の影響 	
<p>その他必要事項</p>		
<p style="text-align: center;">会 議 録 の 確 定</p>		
<p style="text-align: center;">確 定 年 月 日</p>	<p style="text-align: center;">記 名 押 印</p>	
<p style="text-align: center;">令和元年7月 // 日</p>	<p>会長 石嶋 繁 </p>	

発 言 者	発 言 内 容
事務局（市原）	<p>ただいまから地域公共交通会議を開催いたします。お寒い中ご多忙の中ご出席いただきありがとうございます。まず資料の確認です。</p> <p>会議次第 委員名簿 資料 1 - 1 資料 2 資料 3 です。</p> <p>議事進行は要項第 6 条第 1 項により石嶋会長にお願いしたいと思います。</p>
石嶋会長	<p>皆さんこんにちは。</p> <p>本日はお忙しい中ご出席いただきありがとうございます。本日の出席人数は過半数に達しているので会議が成立していることを報告いたします。</p> <p>議題 1 のエビアミー号の利用状況でございます。ご承知のとおりエビアミー号は国の補助事業で実施しており、毎年事業評価を行っています。</p> <p>事務局より説明を求めます。</p>
事務局（渡辺）	<p>事務局の渡辺です。よろしくお願いいたします。</p> <p>議題 1 エビアミー号の利用状況について説明いたします。</p> <p>まずエビアミー号の概要でございます。資料 2 をご覧ください。</p> <p>エビアミー号は地域の公共交通の取り組みとしまして、高齢化率が県内 1 位の 49.4%、右にあります 50.1%は直近の 12 月末の数字です。</p> <p>町内の移動はタクシーのみで移動が困難となっている地域もあります。路線バスや JR の利用者が減少傾向です。</p> <p>目的ですが、高齢化率が県内トップである状況や、運転免許返納も増加傾向にある状況から、高齢者の移動手段の</p>

確保が大きな課題となっているところ、都市部から移住者が増加しているところも踏まえまして、生活圏域の広域化による町民の移動ニーズが多様化していきまして、このようなニーズに対応するために公共交通ネットワークの構築が急務となっていたところです。

その中、ニーズに合った公共サービスを将来にわたって維持確保するために地域内フィーダー系統確保維持事業を実施しているものです。

具体的な内容としては、10人乗りのワゴンが1台町内を回って乗合運行によって自宅から共通乗降場所13か所までの移動を確保するものでございます。状況については資料2の事業の概要にありますとおり、運賃は大人300円、小学生100円、障害者手帳の交付者等は200円となっております。

それでは資料1-1をご覧ください。

こちらはエビアミー号の利用者数として、第3期、平成28年10月から9月まで、第4期、平成29年10月から9月までの利用者数の月ごとの年度間の比較をしたものです。10月から9月となっているのは、国庫補助金の補助事業期間が10月から9月までとなっているためです。

10月から5月にかけては前年の3期から4期を比べますと、大きく落ち込んでいることがわかります。これは前回の会議で申し上げましたとおり、これは平成29年の8月にダイヤを改正しまして、その時期に合わせて利用者が減少した傾向が続いています。ただし平成30年6月以降、前年同月を上回って推移していきまして、7月については501人とこの月としては過去最高、8月の479人は過去2番目を記録しています。10月、11月、12月も前年を上回っている状況が続いています。

資料の1-2でございませう。

こちらは運賃等の収入で、前年同月を比較したものです。当然乗車人員に比例して推移していきませう。収入は第3期が133万900円、第4期が122万9,900円ということで、10万1千円のマイナスです。乗車運賃のほか回数券収入も含んでいます。回数券の収入は増加していきまして、リピーターが回数券を購入しているものと思われ、計画的に

利用いただいていることが想定されます。

資料の2の2枚目でございます。

先ほど会長からもお話がありましたとおり、平成31年1月末までに関東運輸局に補助金の事業評価を提出することとなっています。

これまでの事業の評価結果の反映状況や、定量的な目標、効果、達成状況をまとめたものです。

前回の事業評価結果の反映状況は、平成30年6月に車両を更新しまして、自動スライドドアや自動乗降ステップの搭載を行いました。加えて、待ち時間の幅、乗合運行なので車が自宅に来るまでの時間が読めないこと、その不安を解消するために、車両の位置がスマホ上で確認できるシステムを同じく平成30年6月に取り入れました。

定量的な目標・効果でございますが、計画策定時は1日あたりの利用者数を15人と見込んでおりました。また運賃収入は152万3,900円を見込んでおりました。さきほど資料1で説明したとおり、運賃収入は122万9,900円と計画を下回っております。目標値を下回りましたので、事業評価としましては目標を達成していないという評価にさせていただきます。国交省に提出したいと考えています。

その状況が目標効果の達成状況にあります。利用者数が計画比で808人のマイナス、運賃収入が29万4,000円のマイナスとなっています。

補助事業年度の比較としましては、410人のマイナス、運賃は10万1,000円のマイナスとなっています。前期から中期にかけて前年同月比が大きく落ち込んでいる状況があること、しかしこの利用者の低迷は平成29年8月から顕著となっているものの、後期には回復しまして、前年同月比でプラスに転じている状況は先ほど申しあげたとおりです。

要因は、利用者が低迷し始めた平成29年8月は、運行ダイヤをJRの特急利用者向けに改定した時期に重なります。このダイヤ改正は、便の利用の時間をそれぞれ30分早めましたものです。そのダイヤ改正が裏目に出たことが想定されますけれども、降車ごとの状況を見ますと、利用者の

<p>坂本様</p> <p>事務局（渡辺）</p>	<p>低迷は御宿駅に限ったことではなく医療機関付近の降車状況でも生じています。そのためダイヤ改正により特急への乗り継ぎが便利になった方よりも、その他の鉄道利用者や医療機関の利用者にとって一時的に行動リズムから外れたと想定します。しかし平成30年6月からは利用者数が回復しており、そのため時間とともに行動リズムを利用者がダイヤに合わせていただいている状況と考えています。</p> <p>そのため利用者の低迷は一時的であると考えています。</p> <p>今後の改善点としまして、利用者の状況を見ますと、リピーターが多く、通勤や買い物、通院などの日常の移動手段として利用されていることがわかります。</p> <p>引き続き利用状況の統計を蓄積しまして、ニーズに応じて改善する必要があるとともに、改善による利用者への影響を十分に考慮しながら運行設計を行う必要があると考えます。</p> <p>また、登録者数は、先週の金曜日（1月25日）現在で1,149人の利用登録があります。一方、平成29年10月から細かな統計を取ってみますと、継続利用されている方は2割にも満たない。そのため、移動困難と感じている方は潜在していると思われるが、利用の障害となっていることや情勢の変化をはじめ要望やニーズを的確に把握しましてサービスに生かしていく必要があると考えています。</p> <p>また、ダイヤ改正に伴う影響について前回話にありましたが、分析の方法を平成29年10月から利用者一人ごとに統計を取るようになりました。それまでは日ごとの利用者のみしか統計していなかったのですが、一人ひとりごとの乗車場所、降車場所、便、住所の統計を取り始めました。細かな分析につきましては年度比較ができるようになりましたら、詳しく検証したうえでお示しし、今後の施策に反映したいと思っています。</p> <p>説明は以上です。</p> <p>目標で1日当たり15人を見込むとあるが、今期は1日当たり何人でしょうか。</p> <p>今期は12.1人です。</p>
---------------------------	---

古市委員	利用者の年齢層は高齢者が多いのですか。
事務局（渡辺）	登録者、利用者の年齢別統計はありませんが、小学生以下の利用件数は30年度事業で7件、29年度事業で22件です。感覚的には高齢者が圧倒的に多い状況です。
石田委員	<p>資料1-1で、第4期は6月から前期に比べ伸びている、9月以降も伸びている。逆に第3期の出だしが非常に減っている。そのあたりの分析はどうですか。</p> <p>それと第4期6月以降は回復しているが、車両の更新や位置情報サービスの提供開始が影響しているのか、その状況をどのように感じているか。</p>
事務局（田邊）	<p>利用者の出だし減少についてですが、先ほど担当が申し上げたとおり平成29年8月14日にダイヤ改正し30分前倒ししました。一定の利用者の方は、それまでの時間付けで生活リズムがパターン化していることが考えられまして、30分の時間の変更で行動を変えないといけないということで、一時的に利用の落ち込みがあったものと分析しています。また、その時はだいぶ苦情の電話をいただいたところです。ただし、特急の利用者には好評だったので、公共交通の時間の変更は難しいことを痛感したところです。</p> <p>また、利用者の増加策ですが、さきほど登録者が1,149人と申し上げましたが、登録する方は毎日のように来まして増えている状況です。潜在的に、必要な時には利用したいと考えている方が多いと思っています。ただ、あらかじめ予約が必要、行先が決まっている、時間が決まっているということで、タクシーより使い勝手が悪いというところは否めません。ただタクシーとの共存を図っていかなければいけないので、あまりこちらの利便性を上げるのもいかがかなという問題もはらんでいます。</p> <p>しかし毎日使う方にとっては低廉な価格でご利用ができますので、これからもPRを進めていきたいと思っています。</p> <p>また、以前、年末に運行できないかというご要望があり</p>

	<p>ました。そこで運行事業者の小湊鉄道様に確認しましたところ、年末は路線バスも年末シフトで人員確保の問題等もありますので、その辺はご容赦いただきたいとご回答を得たところです。</p> <p>ただし、県内の同様の事業を見ると日曜日に運行しているところがほとんどありません。</p> <p>御宿町は小湊鉄道さんの協力のもと日曜も運行しているので、他市町村よりも事業内容が劣っているとは思っておりません。以上です。</p>
堀川委員	<p>利用者の意見というのは役所には来ているか。</p>
事務局（田邊）	<p>直接は来ません。運転手から間接的に聞くことはありますが、電話で直接というのはダイヤ改正の時くらいです。</p>
堀川委員	<p>私は住民代表で来ていますので、いろいろ意見を聞いて回っていますが、ダイヤ改正の時は、それぞれの生活のリズムがあっていたものが変わったので利用しづらくなったと、それが、新しいダイヤになれてきて、おそらく増えてきたと、それは理解しています。</p> <p>もう一つはそれ以外につかんでいるのが、御宿台が主だが、もともと御宿台で西武が定期バスを走らせていた。西武がそれをやめるときに石田町長が町のほうで代りをやると、スイッチしたというのが実態だと思います。</p> <p>利用者の声として、申し込みや手続きがやりにくい、ということで、あきらめている人が結構いる。利用したいけど、予約が必要とか、行くときは自宅から予約するが、買い物したとか、駅についたとか、帰りがほとんどない。最短 1 時間前に予約が必要ですね。それが難しいのであきらめている。そういう声がある。なかなか意見をすべて取り入れるのは難しいが、求めているのはもう一つ定期便を走らせられるかということ。これはコストの問題があるのでそこまではいかないですけれども。そうするとそれに合わせて、JRとか病院が利用できると、根強い意見がある。1 日 15 人が達成できないのは、原因がそこあたりにあるのではないか。</p>

事務局（渡辺）	<p>今、全体の利用者のうち御宿台の割合はどうか？</p> <p>御宿台が、パーセントで申し上げますと 59.1%、次に多いのが上布施地区で 16.6%です。</p>
堀川委員	<p>約 8 割近くが御宿台と上布施ですね。だからといって、そこへ重点的にと行政はやりづらいと思うが。もっと利用者は増えると思う。方法は検討していただきたい。国からの補助金もあるので規制もあると思うが。</p> <p>御宿台はご存知のとおりほとんど外から来た、リタイヤした人がほとんどですから、免許証を返していく。その時に足がなくなる。これが一番の問題。これはこの問題ではないかもしれないが、それに対応ができることがないか、なぜ利用しないかという原因がそこにあるのではないか。</p> <p>利用者意見として申し上げるともう少し対応のしかた、利用のしかたについて対応していただきたい、という意見だけ申し上げておきます。</p> <p>私も逆の立場になると難しいと理解しておりますが。</p> <p>今、収入にしても 120 万 130 万のレベルを 150 万に持っていく。利用者も 1 日 15 人に持っていく。</p> <p>あまりダイヤ改正をしますとリズムが狂うので問題があるが、そのあたりも視野に入れながら、もうちょっとこの事業がうまくいけば。目標というか、戦略を立てて、時間をかけてもいいから運行の枠組みを何かできないかなど、意見だけ言っておきます。</p>
事務局（田邊）	<p>確かに利便性を考えると巡回バスが便利なのですが、この会議の前身での検討の中では、巡回バスは空気を運んでいる時間が多いのとロスが多いと、デマンド方式でしたら必要なときに必要な人が乗れるのでロスが少ないと、そういう観点から始まっています。ここから巡回バスに戻すのもかなりのコストがかかるので、実現は難しいですが、この制度をもう少し使いやすく工夫はできないか、というところ。</p> <p>全国的にやっているのを参考にして便利に使える制度に</p>

堀川委員	<p>していきたいと思っています。</p> <p>今のやり方は、中には非常にありがたいという声もある、自宅まで来てくれるということで、そういう意見の方も結構いる。</p> <p>その前の段階の人が使うにはもう一歩だと思っている。</p> <p>もう 1 点は、免許を返納した夫妻でまだまだ元気な場合、利用しづらいという意見がある。</p> <p>これは行政問題かもしれないが、タクシーの利用の仕方が難しいということがある。業者との関係もあるが。</p> <p>これを中心にして高齢者社会に対しての足の問題、足の問題は買い物、医療、お出かけにしても、足がなかったら動かなくなる。そうすると健康問題まで影響してくる。</p> <p>このようなことも含めて、考えていかなければいけないと、意見として申し上げておきます。</p>
石嶋会長	<p>核心的で重要な意見もありました。他になれば、議題 1 について終了します。</p> <p>「その他」はございますか。</p> <p>ないようですので、本日は終了とします。以降の進行を事務局にお返しします。</p>
事務局（市原）	<p>それではご協議いただきありがとうございました。</p>

(会議経過)

会議の名称 御宿町地域公共交通会議

開催日時 平成 31 年 1 月 28 日 (月) 10 時 30 分

出 欠 席 者 名 簿

委 員 氏 名		出欠等	委 員 氏 名		出欠等
会 長	石 嶋 繁	○	委 員	川 俣 好 彦	○ (代理)
副会長	堀 川 賢 治	○	委 員	松 本 眞	○ (代理)
委 員	石 田 義 廣	○	委 員	成 田 齊	×
委 員	田 中 雄 一	○ (代理)	委 員	成 田 誉 紀	×
委 員	飯 塚 孝 廣	×	委 員		
委 員	古 市 茂 雄	○	委 員		
委 員	大 野 敏 夫	○ (代理)	委 員		
委 員	及 川 竜 昭	○ (代理)	委 員		

(敬称略)

出席 9 名 ・ 欠席 3 名

凡例 ○出席 ×欠席